

平成31年 3月

# 楊傑 学位論文審査要旨

主 査 今 村 武 史  
副主査 島 田 美 樹  
同 花 木 啓 一

## 主論文

Pharmacokinetic drug interaction between rosuvastatin and tanjin in healthy volunteers and rats

(健全ボランティア及びラットにおけるロスバスタチンと丹参の薬物動態学的相互作用)

(著者：楊傑、長谷川純一、遠藤佑輔、飯塚和彦、山本美輪、松田明子)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

## 参考論文

1. Components of boiogito suppress the progression of hypercholesterolemia and fatty liver induced by high-cholesterol diet in rats

(防己黄耆湯の成分は高コレステロール食によるラットの高コレステロール血症と脂肪肝の進展を抑制する)

(著者：銭衛斌、長谷川純一、蔡欣蕊、楊傑、石原巧貴、平曷琮、津野智史、遠藤佑輔、松田明子、三浦典正)

平成28年 Yonago Acta Medica 59巻 67頁～80頁

2. Establishment of a novel in situ rat model for direct measuring of intestinal drug absorption: confirmation of inhibitory effects of daijokito on the absorption of ranitidine

(腸管薬物吸収直接測定のための新規生体内原位置ラットモデルの確立：大承気湯のラニチジン吸収阻害作用の確認)

(著者：銭衛斌、長谷川純一、楊傑、遠藤佑輔、三明淳一郎)

平成30年 Yonago Acta Medica 61巻 192頁～196頁

## 審査結果の要旨

本研究は、高脂血症治療に用いられるロスバスタチンおよび漢方生薬・丹参について、併用時の薬物相互作用を明らかにすることを目的として、健常ボランティアを用いた臨床研究およびラットを用いた薬物動態解析実験系により、ロスバスタチン吸収過程を解析、検討したものである。その結果、ロスバスタチン血中濃度は丹参併用により有意に低下することがヒトおよびラット双方で認められた。ラット小腸および肝臓における薬剤トランスポーター OATP、BCRPの遺伝子発現解析により、丹参が小腸においてロスバスタチン排泄に関与するBCRP発現のみを上昇させることを見出し、ロスバスタチン血中濃度低下の原因となり得ることが示唆された。

本論文の内容は、高脂血症治療に頻用されるスタチン系薬剤の新たな薬物相互作用を報告したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。